

開講日	2026年秋期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	Zoom配信 + 対面講義(医学部研究棟11階 講義室A)
コースディレクター	名古屋市立大学 大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 教授 岩田 欧介		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】小児医療とは子どもの症状・病気に対して適切な処置を行いつつ心身の健康をサポートするものです。多岐にわたる幅広い知識と対応する能力が望まれます。日本の出生数は減少する一方、医療が大きく進歩したこともあり、新生児から思春期まで様々な病気や問題を抱える子どもの数は多くなりました。その中には感染症やアレルギーだけでなく、心身症や発達障がい、児童虐待といった発達・心理的支援が必要なもので広く含まれます。小児医療に対する社会的需要は非常に高く、多くの人が現場チームへ参加することが望まれています。本講座では、小児医療の各分野で現在活躍されている方々を講師に迎え、最新の知見を含めた小児医療の実践を学んでいただきたいと思います。 小児医療の学習範囲は幅広く細分化されますが、本コースを受講することで現在小児医療の現場で実際になされている事項を広く効率的に学ぶことができます。身近でよく見られる症状から、稀にしか遭遇しないが知っておくべき疾患までカバーされています。さらに、発達障害や心身症など、これから知っておきたい分野まで見識を深められます。学習を通じて、小児医療に関心を持つ好機になるだけでなく、実際の小児医療の現場へスムーズに参加して活躍する手助けとなると確信しています。		
目標とする 資格	小児領域の資格看護師(小児看護専門看護師、小児プライマリケア認定看護師、新生児集中ケア認定看護師)を目指す方や、NCPR(日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法)インストラクター・修了認定を目標にされる方。もちろん、子どもたちの医療現場に興味を持たれている方であれば、現在の小児医療の実践を知る・振り返るために役立つ内容が網羅されています。		

サブカテゴリ	No	タイトル(仮)	講義概要	開催日	講師(所属)
アドボカシー	1	小児医療におけるアドボカシー	近年は子どもが意見や考えを表明できるようにサポートする「アドボカシー」が現場で重要視されています。小児医療におけるアドボカシーとは何か？我々小児医療に携わる医療者ができることは何か？についてお話しします。	9月2日	伊藤健太 あいち小児保健医療総合センター 医長
内分泌	2	身長科学～低身長と思春期発達の異常～	小児の内分泌領域では3分の1の患者さんは低身長症です。思春期発達のタイミングは、成人身長に大きな影響があります。この講義では、子どもたちのより良い成長を目指した身長科学について学んで頂きます。	9月9日	青山幸平 名古屋市立大学 大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 講師
腎泌尿器	3	小児検尿検診現状と問題点 ～乳児検尿から学校検尿まで～	我が国は検尿検診が3歳児から幼稚園、学校まで一貫して行われており、その中で学校検尿は50年を超える歴史があります。確実に成果が上がっているのですが、世界では珍しいシステムであります。なぜ海外では行われていないのか、実際の成果はどのようなものなのか、現状の検尿システムの問題点、そして、改善への試みなどについてお話ししたい。	9月16日	後藤芳充 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 部長
神経	4	小児のけいれん性疾患～熱性けいれんからてんかんまで～	熱性けいれんなど小児のけいれん・意識障害は身近でよく遭遇します。時にけいれんが重積したり、脳症であったりに対応に難渋することもあります。本講義では熱性けいれんからてんかん・脳症まで、初期対応から管理法を中心に最新の知見を交えて学びます。	9月30日	根岸豊 名古屋市立大学 大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 助教
血液	5	小児の血液疾患	小児の血液に関連する疾患は稀なものもあり、日々遭遇するものでない一方、腫瘍など見逃してはいけない疾患が多いことも事実です。本講義では、小児血液疾患について分かりやすく解説します。	10月7日	亀井美智 名古屋市立大学 大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 助教
新生児①	6	新生児集中治療室の実際	新生児集中治療室(NICU)には様々な赤ちゃんたちが入院します。今回どのような疾患の赤ちゃん達が入院し、そのご家族とどのように過ごしているかを実際の様子を紹介しながら新生児治療を学びます。	10月14日	杉浦崇浩 名古屋市立大学 大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 助教
心身症	7	心身症の理解と対応	近年、不登校となる児童・生徒が増加していますが、その背景に様々な心身症が関与していることが少なくありません。心身症の診療では、一般的な身体疾患とは異なり、心理教育や環境調整などが重要です。本講義では、起立性調節障害、慢性頭痛、神経性やせ症などの心身症に関して、基本的な理解と対応について概説します。	10月21日	大橋圭 名古屋市立大学 大学院医学研究科 ころの発達医学寄附講座 講師
発達障害	8	発達障害(神経発達症)支援の基礎知識	小児医療において発達障害(神経発達症)の知識は必須になってきています。また、神経発達症の支援は時代の流れや社会の変化とともに常にupdateされています。今回は、様々な神経発達症の支援において知っておくべき基礎知識を整理したいと思います。	10月28日	宮地 泰士 名古屋市中央療育センター所長
虐待	9	虐待から小児を救うために	小児の虐待は年々増えており深刻な社会問題となっています。困難な環境から子どもを救い、虐待を無くしていくには多職種にわたる広い支援が必要です。本講義では児童相談所で子どもたちを守るために活躍されている先生から、虐待が疑われる児の特徴、対応法、その後の長期的ケアなど、実際の現場を中心に解説していただきます。	11月4日	丸山洋子 名古屋市中央児童相談所
重症心身障がい	10	医療的ケア児が地域の中で生きていくこと	「医療的ケア児」「重症心身障害児」と言われる子どもたちはどういった子たちなのか？どのように生活し、何に困っているのか？この子たちが地域の中で生きていくために我々は何ができるか 共に考えてみませんか？	11月11日	水野美穂子 重症心身障害児者施設「にこいのいえ」
アレルギー	11	医療スタッフが活躍する小児アレルギー診療最前線	小児アレルギー分野の3大疾患である「食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息」の最新管理法を一気に学びます。また「看護師・薬剤師・栄養士」との協働が欠かせない分野ですので、アレルギー指導の専門資格である「小児アレルギーエデュケーター・アレルギー疾患療養指導士」を有する専門看護師による実際の患者支援法も学びます。「素敵な学びなおし」の機会になりましたら幸いです。	11月18日	①谷田寿志 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、助教 ②柏原一水 聖霊病院 看護師
先天異常	12	子どもを診るための遺伝のはなし	遺伝医学は難しい印象を持たれがちですが、近年は一般診療でも重要性が高まっています。本講義では基本的な遺伝医学の知識を学びなおし、小児医療でよく遭遇する先天異常や 染色体異常についての理解を深めます。	11月25日	横井暁子 名古屋市立大学 医学部附属西部医療センター 講師
新生児②	13	新生児蘇生法最新バージョン	出産・出生は人生で最大のイベントであり、同時に最も危険な瞬間です。全ての新生児が生後元気に過ごすことができるように、出生直後の新生児の対応は国際的に標準化されてきました。ここでは、我が国における標準的新生児蘇生法であるNCPRの最新版を習得します。	12月2日	加藤丈典 名古屋市立大学 医学部附属西部医療センター 准教授
救急	14	小児救急	小児の緊急度重症度の考え方から災害医療まで広く小児×救急にまつわるお話をさせていただこうと思います。	12月9日	今井一徳 名古屋市立大学 大学院医学研究科 救急救命センター
循環器	15	目からうろこの先天性心疾患	生まれつきの心臓病とは「そうだったのか！」と目からうろこの先天性心疾患のお話をします。「なんて人の心臓は精巧にできているのだ」と医学を学ぶ意欲を刺激します。	12月16日	篠原務 名古屋市立大学 大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 講師